

# 海夫通信 第45号

【海夫】潮の香りをほのかに残すここ霞ヶ浦にもかつては多くの海の民がいた。海に寄り添い、潮の流れとともに暮らしていた人たちに思いを寄せて、今生きる霞ヶ浦の海夫たらんとす。

NPO法人霞ヶ浦アカデミー会報



## CONTENTS

【特集】霞ヶ浦導水事業

【コラム】行方市に動物園オープン ほか

【寄稿】JAPANボランティア協会

【報告】ウナギ捕れる！？たかっぼ制作を体験

# 霞ヶ浦導水事業と千波湖

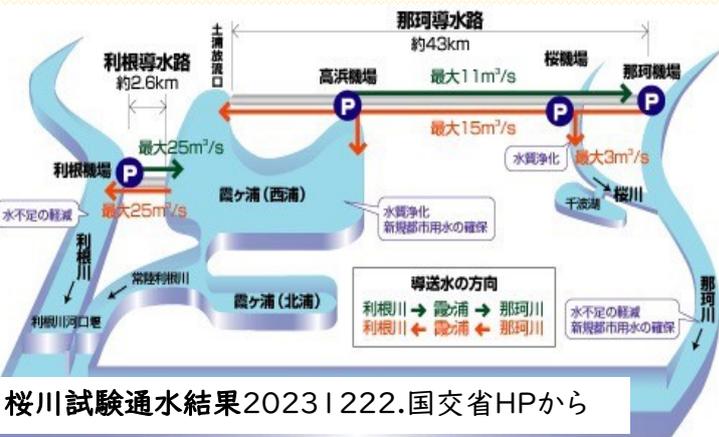
## 寄稿

千波湖の水事情は時代とともに変化を遂げて、周辺の水辺環境は悪化の一途をたどっています。そのひとつが「アオコ」問題。歴代の水戸市長は千波湖対策の一環として取り組んできました。

井戸屋の井戸端会議  
西原 昇治

▼アオコ汚染への行政の取り組み  
長（※霞ヶ浦導水事業水戸トンネル）

加藤浩一前市長は、次のように語っています。「私は、そのトンネル※を利用した桜川への導水が早くできるように、那珂川の取水口の完成を国に強く働きかけています。毎秒三トンの導水による桜川や千波湖の水質浄化を、今後五年を目途に実現し、透明感のある美しい湖面を復元したいと思います。」（広報みと平成一八年八月一日号 加藤浩一市長）



桜川試験通水結果2023 | 222. 国交省HPから

### ▼浄化対策へ一言

千波湖の水辺環境を改善するためには、千波湖とおつきあいしてきた経過を理解して、対策を考える事です。千波湖は、那珂川の浸食谷に海から遡上した泥が堆積、その後那珂川の土砂によってせき止められた「海跡湖」です。那珂川の副産物であった千波湖の水域は、自然堤防により狭められ、大正時代には埋め立てられ現在の形となりました。その後

「霞ヶ浦導水事業が完成するまでの間、試験的に通水を行うもので、水質浄化効果（希釈効果）は一時的なものになります。」と報道。重要なのは〇希釈効果に注視です。また、令和六年六月十一日水戸市議会一般質問で、「本格運用は令和十二年度以降見込む。」と回答しています。



柳堤堰：桜川の堰を揚げて千波湖と同じ水面とする  
水は備前堀に流れて農業用水となる



S28年千波湖の水を抜いた跡水の流が残る

(上図) 昭和28年の千波湖空撮：かいほりで湖底の土砂を大気にさらして曝気効果を期待する  
土中に酸素が供給されることで、汚濁物質の分解が進み水質の悪化を防ぐ



千波湖周辺図：千波湖面の青色の広がり3本の河川に広がり、黄緑の位置で流れが合流する  
導水の増水により合流地点は上流に移動している

南開発に伴い、千波湖の流れは桜川と切り離されました。現在千波湖の水循環は桜川の導水で制御されています。その桜川の水の流れは那珂川からの導水に頼っています。出来れば、四季の原の南に広がる湿地帯から湧き出す地下水を集めて千波湖に導水しては如何でしょうか。桜川下流域は見川、千波の台地を涵養源として地下水が湧き出し、千波湖の水辺環境をつくりあげてきました。その流れを活用するのです。またアオコの繁殖を抑える効果として、かい掘りは、湖底土砂が大気に触れる事で汚濁物質の分解が進み、水質一助としてはと考えます。

南開発に伴い、千波湖の流れの悪化を抑制する効果が期待できます。またかい掘りは様々な環境教育の場を与えてくれます。

試験通水の結果を見ると、アオコは千波湖から桜川、沢渡川、逆川の上流へと遡上しています。これは導水の増水による遡上と考えられます。また、那珂川の流量減少によって取水を停止することもあり、導水に支障が生じています。本格運転する前に検証しなければならぬ課題といえます。霞ヶ浦導水事業は、千波湖を課題解決の実証実験の場としては如何か。その結果は随時公表して本格運用の是非の判断の一助としてはと考えます。

# 北浦へ導水事業を拡大するって、ホント？

霞ヶ浦と那珂川、利根川を二つの地下トンネルで結び新たな水源確保を目指す「霞ヶ浦導水事業」。漁業者は事業に反対していましたが、東京高裁の勧告により2018年4月に和解が成立し、国と漁業者側が話し合いをしながら事業を進めることになりました。

霞ヶ浦がきれいになるから分らない、生物多様性も破壊するこの事業について、北浦へも拡大するという話が聞こえてきました。

(菊地)

茨城県議会一般質問(要旨)  
霞ヶ浦導水事業

北浦の水質浄化のための堅倉立坑から巴川を経由しての北浦への通水工事や水力発電施設の設置が必要だと考えるが、所見は？

政策企画部長 北浦への通水には、整備費用の整理や現行計画で期待される西浦の水質浄化への影響評価など解決すべき課題も多い。水力発電施設の設置も費用対効果の確認が必要であるが、提案内容は国に伝えていく。

(いばらき県議会だより No.228)

茨城県議会で潮来市、行方市選出の栢田千春議員が一般質問で霞ヶ浦導水事業について取り上げました。右側に示したの「いばらき県議会だより」の掲載内容です。

栢田千春議員は大学卒業後から額賀福志郎衆議院議員の秘書。2007年から2期、潮来市長を務めています。実は議会です。霞ヶ浦導水事業が取り上げられる1年前に、額賀福志郎氏

が国立環境研究所の研究者を議員会館に招き、霞ヶ浦導水事業を北浦に拡大した場合の水質浄化効果についてヒアリングしたとの情報を得ています。導水事業の効果について国交省はわずかにCODが0.4mg/l低下すると公表しています。霞ヶ浦導水工事事務所のホームページにある「霞ヶ浦導水事業について、みなさんの疑問・質問にお答えします」を開いてみました。質問「霞ヶ浦の水質は、どの程度まで良くなりませんか？」に対し「ただいまページをリニューアル中です。いましばらくお待ちください」とありました。



霞ヶ浦アカデミー会員  
西谷篤彦

今年の夏も梅雨の前後から猛暑・極暑の日が続き、熱中症警戒アラートが連日発令されていますが、皆様いかがおすごしでしょうか？

土浦の奥井薬局の奥井登美子さんが「ニュースつくば」に載せた記事を紹介します。

## ▼気温と体温

気温が、体温と同じくらいになるなどということは、今までの日本では考えられなかった現象である。コンクリート道路の上などは40度近くになってしまふ。こうなると自分で自分の体温が維持できない人たちが増えてくる。

今までにない身体現象だから、あいまに、おまかに、春は「花粉症」夏は「熱中症」と呼んでいるが、呼吸、皮膚炎、頭痛、咽喉炎、生理痛などが体温の変化と複雑にからみあってしまっている。こういう時代が来ることは、医療関係者も予想していなかったに

ちがいない。平凡に解熱鎮痛剤を処方する医者。抗アレルギー薬を入れて処方する医者。熱があるからといって抗生物質を処方する医者。先生たちも気温と体温の、からみあいのめっちゃめっちゃに頭を悩ませているにちがいない。

## ▼酷暑の後遺症

日本人が歴史上今まで経験したことのないような暑さを体験した私たち、秋になって涼しくなり、ほっとしたとたん、わけのわからない病気が増えてきたような気がする。

酷暑体験の後遺症。あと何年かたてばその病名も説明されて、きちんとした病名がつくに違いないのだが、病名ともいえないわけのわからない症候群に、私はあだ名をつけてみることにした。

## 「声患い」

天気予報で低気圧が近づいてくると、加減が悪くなる人が増えてくる。「低気圧病」喉が詰まると、声が出にくくなる。声わずらいの人も多い。

「コエ患いですか？」などと、冗談半分で聞くと、

「とんでもない、そんな年ではない。喉が詰まって、声が出にくいんです」

## 「胃もたれ」

「熱中症」という漠然とした病名から派生した後遺症も多い。涼しくなって少しほっとしたトタんに、食欲がなくなると、何も食べたくない。何もしたくなくて、ごろごろしている症状のお年寄り

が多い。医者もどうしていいのかわからないらしく、胃腸薬にビタミン剤を入れた処方箋が多い。

## 「かゆいかゆい病」

男の老人に多い。背中が痒いといつてかいてしまふ。熱中症でたくさん汗をかいたのに本人は気がつかない。そのままにしておいで出来たアセモを「孫の手」風の棒でかきむしってしまう。昔はそういう時、孫が来て、可愛い手で優しく背中を搔いてくれたらしい。それで背中を搔く器具に「孫の手」という名がついた。今の孫は、背中どころか小遣いをもらう時にしか手を出さない。



日射病は太陽光が原因で起こる熱中症の一種で、以前は炎天下で発症するものを日射病と呼んでいましたが、高温になった屋内でも発症することが多いため、今日では一般的に「熱中症」と表現されています。

新型コロナウイルスが全国的に広がり、11度目の流行の波が来ています。新型コロナウイルスは夏になると大流行を繰り返す、例年のピークは8月。

まだ残暑も厳しき折、こまめに水分補給、冷房の適切使用などの熱中症対策、そしてマスク着用、手洗い等の感染対策にも注意して、お元気で過ごしてください。

なめがたし

# 行方市に動物園オープン 「どうぶつとみんなのいえ」

行方市に動物園が7月31日にオープンした。「動物や自然との共生を通して、人が考える場所」を掲げ、キリンをはじめとした19種の動物を展示、飼育する。子どものころから生き物が好きな僕は、動物園と聞くだけで楽しくなるのだが、せっかくだから動物園が何か改めて調べてみた。

国内139の動物園、水族館が加盟する(公社)日本動物園水族館協会(JAZA)は、①種の保存、②教育・環境教育、③調査・研究、④レクリエーションという4つの役割を掲げている。動物園と聞くと「楽しくなる」という私みたいな感想を持つ人もいるかもしれないが、それは動物園の1要素ということになる。動物園には専門家が働いていて、希少な動物を守り、教育や研究も行っていく施設なのだ。

全国に目を向けてみる。動物園について最近のニュースを拾ってみた。千葉市動物園では、千葉県内で駆除されたイノシシの肉を、ライオンやハイエナの餌として活用する取組を行っている。骨や皮のついた野生に近い肉が与えられることで、肉食獣のQOL(=Quality of life、「生活の質」)を高める取組という。

「種の保存」について親しみやすい例はコウノトリかと思う。コウノトリは1956年には国内20羽まで減少。1965年から野生個体の捕獲と、飼育下で繁殖させる試みが進められた。1988年多摩動物公園で中国から導入した個体で国内初の人工繁殖に成功。

05年には世界初の放鳥が行われ、22年は飼育個体が182羽、屋外個体数が309羽に増えた。行方市においては23年に続いて、24年もコウノトリ孵化が確認された。

「どうぶつとみんなのいえ」にやってくるメインの動物「キリン」についての話題はないだろうか。国際自然保護連合(IUCN)によるレッドリストでは、2016年にキリンが絶滅危惧種に指定。約30年で個体数が最大4割減った。一方、キリンの国内繁殖は成功しているらしい。最大の繁殖基地は多摩動物公園。多摩動物園は約200頭も繁殖させているとのこと。生まれた子どもを全国の動物園やサファリパークへ搬出、その多くのキリンも各地で子どもを増やしている。現在は、全国で飼育頭数が増加し、キリンを飼育する面積にもとづく収容可能な頭数の上限を超えるようになったため、繁殖制限がとられているのだとか。

新たな動物園の誕生でにぎわっていく行方市。4つの役割を果たしてくれることを期待したい。(菊地)



## コラム 梶無川のPFAS大丈夫 その2

環境省が取りまとめた「令和3年度公共用水域及び地下水のPFOS及びPFOA調査結果一覧」において、茨城県の梶無川(行方市、上宿橋)地点で有機フッ素化合物PFAS(PFOS+PFOAの合計値)が1リットル当たり54ナノグラム検出された。海夫通信44号では、飲み水の安全性についての不安を書いた。分解されにくい物質で、体内への蓄積性もあるのだそう。発癌性が懸念される(した動物の胎児に影響を及ぼすことなどの報告もあるという)。「行方市でPFASが検出された」と聞き、大変だ」と令和5年度中に行方市水道局に問い合わせた。その際はPFASの測定は行っていないとの回答を得ていた。令和6年度になり再度問い合わせたところ、各浄水場につき年一回、PFASの測定を行うことが決まったという。既に順次測定しているそう。測定するのは上水。取水した水(浄水場での処理前)は測定されない。電話口で担当者は「暫定の基準値(飲料水、河川および地下水のいずれにおいても暫定目標値:1リットル当たり50ナノグラム)を超えておらず、3、4ナノグラムの検出にとどまっているから安心してほしい」と話す。なお各国は規制を強化して、米国バイデン政権は水道水におけるPFASの基準値をPFOS、PFOAそれぞれ1リットル当たり4ナノグラムに設定した。日本では環境省の中で議論が進んでいるが、とても前向きとは思えない。(菊地)

令和5年度 PFOS・PFOAの調査結果 (2024年7月31日公表、茨城県)

類型指定水域	環境基準点	PFOS・PFOA(ng/L)
花室川	親和橋	11
備前川	備前川橋	12
桜川	栄利橋	16
梶無川	上宿橋	19
山田川	荷下橋	14
武田川	内宿大橋	25
鉾田川	旭橋	69
常陸利根川	息栖	12

【浄水】茨城県企業局 PFAS (有機フッ素化合物の総称) (PFOS・PFOA) 検査結果

	R5年度						R6年度							
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
霞ヶ浦浄水池	2	2	2	2	2	2	5	5	5	5	2	<2	<2	2
利根川浄水池	7	8	10	9	3	8	5	5	3	4	4	3	5	7
阿見浄水池	<2	<2	<2	<2	2	2	5	4	4	4	3	2	<2	<2
鹿島浄水池	3	4	4	4	4	10	10	8	8	9	4	2	<2	3



いいね！お願いします

facebookで  
日々の活動を更新中！

# ウナギ捕れる！？たかっぽ制作を体験



**ウ**ナギ漁の道具「たかっぽ」を制作するワークショップを2024年5月26日、6月16日に開催した。5月の回では、竹をノコギリで切り、節を抜く作業を体験した。6月の回では、地元漁師さんの協力で、実際に設置されているたかっぽを引き上げたり、定置網やタモ網で捕れた魚を観察した。



## 夏の定番 カヌー体験



**今**年もカヌー体験を実施しました。開催日の2024年7月21日も猛暑となり、熱中症に気を付けながら、こまめな給水を心がけて開催しました。まずは陸で、パドリングや乗り方、降り方を講習したあと、実際に霞ヶ浦でカヌーやSUPを楽しみました。今回は参加者が多くなかったのですが、のびのびと自由に乘れたと思います。

## ●JAVOの活動

私たちJAPANボランティア協会、通称JAVOは、「日本でボランティアを当たり前に」というビジョンのもと活動しています。そのためのミッションとして、日本におけるボランティア活動のインフラ構築を掲げています。活動の主軸となっているのは、「ボランティア証明書の発行」と「ボランティアメディアの運営」です。ボランティア証明書は、受験や就職活動、企業のCSR活動に利用されており、発行する方で一番多いのは学生です。いろいろなNPO法人でのボランティア活動や、財団法人・学校・行政・企業でのボランティア活動に対してボランティア証明書を発行しています。

ボランティアメディアではJAVOの学生ボランティアが中心となり、自身のボランティア経験談や企業の社会貢献活動、NPO法人の活動を紹介する記事を掲載しています。ボランティアメディアを通じて、ボランティアに募集してくれる方も増えています。

個々での活動も多いですが、月に一度の定例会議ではメンバーが顔を合わせ、その月の成果を確認しあっています。オンラインでの活動が中心のため、全国どこからでも参加しやすいのは強みです。

## ●JAVOの設立背景

「日本でボランティアを当たり前に」という切実な想いから、2014年に設立しました。JAVOは、「ボランティア活動の活発化が日本社会をよくする要の一つである」と考えています。資本主義社会において、経済的格差は開いていく一方ですが、ある意味やむを得ないと思います。そして政府は税金の徴収と再分配によって、経済的弱者を助けるために存在しています。しかし、「政治的マイノリティ」という形で黙殺される一人一人の声があるのも事実です。そこで、政

治や経済の手の届かない地域や団体、個人を助けるために、ボランティア活動の活発化は必須となると考えています。欧米では、日本の5〜10倍の人々がボランティア活動に従事しています。大企業や有名大学に入るにはボランティア活動が必要不可欠なため、週一回のボランティア活動を義務化している高校もあります。

かくいう私も、新卒で入社した会社がNYにあったため、よくボランティアを会社で行っていました。日本にも同じような兆候は到来しつつありますが、受験や就職時に有利となる「ボランティア証明書」の発行があまりありません。ボランティア活動を行う一部のNPO法人が、時間とお金をかけて発行しているのが現状です。これが日本ボランティア業界の課題だと考えました。その解決のために、私たちJAVOが「ボランティア証明書の第三者機関としての発行」と「その存在価値を高める活動」を通じて業界を盛り上げ、各NPO法人は独自の活動に専念するという環境を作り上げたいのです。そうすることで、日本のボランティア活動をより良いものにしてきたいという思いで、これまで活動を続けてきました。

## ●日本の学生ボランティアの現状

現状、学生ボランティアの数は増えていますが、まだJAVOの目指す社会には到達していません。ボランティアに興味を持っている学生が少ないのではないかと考える人もいるかもしれませんが、決してそんなことはありません。現にJAVOには約60人の学生が所属していますし、毎月のように新しいメンバーも増えています。ボランティア証明書の発行の依頼も多くあり、学生から依頼をいただきます。学生がもっとボランティア活動を積極的に行うために足りないのは、周囲の環境だと考えています。

海夫通信では、みなさまからの掲載する原稿・写真を募集しています。昔の霞ヶ浦の様子や、庭にいた珍しい生き物、お気に入りの自然スポット、本の感想などテーマ問わず原稿をお寄せください。

## 会 員 募 集

NPO法人霞ヶ浦アカデミーは、みなさまのご支援により活動を継続できています。活動を共にしてくれる、また応援してくれる会員を募集しています。ご協力よろしく願っています。

普通会員 入会金 1,000円  
／ 年会費 3,000円  
賛助会員 1口 10,000円

[入会の方法]

氏名、住所、連絡先、会員の種類をご記載の上、メールもしくは郵送でご連絡下さい。

## ／うなぎ釣りました！／



ひたちななか市しんかわで、釣りを通じて知り合った方からしんかわにウナギがいるよとは聞いて来たのですが、オイカワしかいない。オイカワ釣りをしていたところウナギが釣れました！（石崎さん・水戸）

## 編集後記

今号はいろいろな話題があつて、読み応えのある紙面になったと思います。霞ヶ浦アカデミーはだいたい第3日曜日が活動日で、午前中に子供向け講座を、午後に理事会を行っていただきます。PFASや霞ヶ浦導水事業、動物園もオープンするし、月一回の理事会ですべての議題について話し合うのは大変です。1カ月という時間で世界はどんどん変化していくようです。



さて我が家に増えた新しい家族も、1カ月で随分変化しています。前号の編集後記では「寝返り」について書いていましたが、今は部屋中を「ずりばい」して動き回っています。油断するとスマホを奪って、舐めています。一緒に動物園に行くのも楽しみです。

霞ヶ浦アカデミー理事・事務局長  
菊地 章雄



●学生ボランティアのためにJAVOができること  
 設立背景とも重複しますが、ボランティア活動のインフラを構築することです。ボランティア証明書の発行で、活動の価値を視覚化していきます。また、JAVOの信頼度を上げることで、学生たちが安心してボランティアに取り組める環境を作っていきたいです。そのための方法の一つが、ボランティアメディアです。ここでは、学生たちが自分の経験をもとに欲しい情報の集め方やボランティアの探し方も紹介しています。NPO法人の

先述のように、日本では受験や就職活動を始めボランティア活動を評価する体制が整いきっていません。加えて、ボランティア活動をどこで行うか、信頼できる団体はどこかなど情報を見つけにくいのも課題だと考えています。こうした課題を解決することで、ボランティア活動をやってみたいという学生たちが実際に行動を起こすきっかけになるはずですよ。そうすれば、日本の学生ボランティアはもっと増えていくと思います。



活動も紹介しており、そこから興味を持った学生が声をかけてくれることもあります。メディアを通して、ボランティアに興味を持つ学生たちの支援を広げていきたいです。

●JAVOで活動する学生ボランティア  
 ここまで紹介したように、JAVOでは多くの学生ボランティアが頑張ってくれています。ボランティアメディアの運営は、記事の作成から掲載まで学生主体で行っています。毎月目標を決めたり、タイトルのつけ方や記事の内容を工夫したりして、より良いメディアになってきていると思っています。JAVO全体で行う月一回の定例会議の他にも、学生のみが集まって月に二回会議を行っています。この発案も学生ボランティアからあったもので、ボランティアメディアの成長は学生ボランティアたちが一丸となって頑張っている結果です。NPO法人への連絡やプラットフォームの作成を任せている学生もいて、日々成果を上げてくれています。つい先日、学生の一人はローカル局のラジオ番組から取材を受けました。JAVO設立以来初めてのことで、本当に嬉しかったです。彼女がいろいろなNPO法人との連携をしていく中で出てきた機会で、彼女がしっかりとそのチャンネルを掴んでくれました。私からアドバイスをすることもありますが、自分たちでどんどん動いてくれる人が多く学生ボランティアのすごさを体感しています。私が高校生・大学生のときと全然違って、社会課題への意識は上がってきています。その課題意識をしっかりとしたボランティア活動へと繋げていくことが私たち大人の役目ではないでしょうか。学生ボランティアの活動は、JAVOを支える大切な柱です。これからも学生たちが活動しやすい環境を目指し、私も努力したいです。

●これからのJAVOが目指すこと  
 JAVOのビジョンの実現には、まだ時間がかかると思います。しかし、JAVOで活動するメンバーたちのおかげで、少しずつ前に進んでいます。設立当初から軸としている「ボランティア証明書の発行」と「ボランティアメディアの運営」をこれからも続け、広めていくことが第一の目標です。そのためには、NPO法人との連携を増やし、ボランティアに興味を持つ人々の目にとまるような情報発信を行っていきたいです。また、行政との連携など新しい活動にも積極的に取り組んでいこうと思います。「日本でボランティアを当たり前」を目指して、今後も前に進みます。



2024.06.02県境～桂



那珂川の上流の方へ行くことも考えたのですが、天気は午後から荒れ模様ということで、近場の県境から下ることにしました。

3人だったので、流れの中でフェリーグライドやテレマークターンの練習をみっちり。ロールをする人もいたりして。

午後は早めにあがりました。案の定、帰るころには激しい雨となりました。いい練習のできた一日でした。

# 9/23 祝 湖畔の音を聴くワークショップ

## 募集中



霞ヶ浦湖畔で、音楽を楽しみながら五感で自然を感じるワークショップを開催します。歌いながら歩く、自然の中に寝転んでみる、野草を生ける、どんぐりのお茶を味わう、いろんな生き物を観察する、などなど。

■日時 2024年9月23日(月・祝) 9:30~12:00

■場所 高須崎公園および霞ヶ浦湖畔

(集合:道の駅たまつくり情報交流センター前)

■参加費 無料

■対象 未就学児および小中学生とその保護者

■服装 汚れてもいい服装、飲み物、敷物(レジャーシート等)

■申し込み 申し込みは以下のフォームにて参加者全員のお名前・住所・電話番号をご記入ください。後ほど主催者から案内がございます。

<https://forms.gle/iqZx6FrBk57Ee5ju6>

■講師 山田証氏、ほか

■山田証氏プロフィール

「歌う自然ガイド」として、日本全国の森で、森の歌コンサートを展開。森の景色、森の音、ナイトウォークなど様々な自然体験と共に、寝転びながら森を学ぶ「ごろんコンサート」を行う。福井県出身。シンガーソングライターとしても活動の一方、自然科学にも興味を持ち、林業、造園業、環境教育、インタープリテーションの手法を学ぶ。森林インストラクター(一社)全国森林レクリエーション協会認定。



## 日本全国の美しい水にまつわるスポットをご紹介します



青森県と秋田県にまたがる十和田湖(とわだこ)。十和田湖から唯一流れ出ている川が奥入瀬溪流(おいらせけいりゅう)で、約14キロメートルの自然散策路が整備されています。このエリアは「十和田八幡平(とわだはちまんたい)国立公園」になっており、雄大な自然が残されています。特に、散策路を歩きな

奥入瀬溪流

おいらせけいりゅう



エリア: 青森県十和田市  
湧水地: 奥入瀬溪流  
アクセス:  
十和田湖畔のバス停・子ノ口(ねのくち) ~ 焼山(やけやま)

がら眺められる川の美しさには目を奪われるほど。色鮮やかな水の色、勢いよく流れる川の音。とにかく心癒されます。春には新緑が、秋には紅葉が楽しめますので、好みにシーズンに合わせてぜひ訪問してみてくださいね。



ここがイチオシ  
散策を終えたあとは、十和田湖産の好物・ヒメマスをおすすめします。ヒメマスはサケ科の淡水魚で、紅鮭が湖で生活しているうちに海に下ることができず、湖で一生活を過ごすことになった魚(陸封型)だそうです。もともと十和田湖には魚はいませんが、明治時代に和井内氏がヒメマスの養殖に取り組み定着させた経緯があります。とても新鮮でおいしいです。

## 水景湧水地研究所

Vol.11



ライター / 菊地早秋

発行 NPO法人霞ヶ浦アカデミー

発行日 2024年8月31日

事務所 茨城県行方市浜370番地1

ホームページ <https://k-acad.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/kasumigauraAC/>

メールアドレス [kasumigaura.academy@gmail.com](mailto:kasumigaura.academy@gmail.com)